

住民を主体とした 避難所運営に向けて

—市民に向けた防災教育活動

— 平田研究室 (指導教員 平田京子 + 卒論生) —

2006年度・卒業論文

避難所における生活ルールの提案

—杉並区震災救援所の調査からみる避難所の運営と課題— (内田 あやか)

地震災害で家などを失った被災者にとって、避難所は短期間ながらも“第二の住居”になります。住居学科は、「住む人の立場で空間を思考する」学科です。住居学科の知見をいかして、避難者にとって、まるで住まいのように心地よい、よりよい避難所になるための活動が何かできないかと考えたことから、このテーマが始まりました。

2006年度は手探りで杉並区に適用するモデルで研究を開始しました。杉並区ではすでに数カ所の避難所のマニュアルができあがっている所があり、これを参考にしつつ杉並区役所や住民の防災組織にヒアリングしながら、当時の卒論生内田あやか氏が阪神・淡路大震災に実際に起こったトラブルやその收拾事例を分析し、多くのトラブルを整理・考察してルールブックの内容を考案しました。

このルールブックは、比較的長期にわたる避難所生活の運営ルールづくりにフォーカスし、内容を構成しています。これをアレンジすれば、市民のための防災教育や防災訓練にも使えると思います。避難者は、避難所を運営していく主体でもあります。ボランティアや行政・避難所となる学校などの運営者と協力して、自ら運営していくために、このルールブックが役立ちます。ルールブック本文は、平田研究室のホームページをご覧ください。

<http://momi.jwu.ac.jp/~hirata/>

2007年度・卒業論文

避難所運営への住民の主体的参加に向けて

—生活ルール作成に役立つゲームの開発— (麻生 奈美)

昨年度に引き続き、住民に避難所での生活を想定してもらうことと避難所を運営できるようになることを目的に、楽しみながらできる防災ゲームの開発を行いました。ゲームは、避難所で起こる生活上のトラブルに遭遇しながら、数人のグループで生活ルールを作って解決していくものです。文京区内の町会で実際に住民の方にゲームをしてもらいました。ゲームに集中して、ディスカッションタイムに活発に話し込む参加者の方々をみていて、こうしたゲームを通じて防災に関する対話がより活発になればいい、と願わずにはいられませんでした。



文京区における地震防災危険度マップの作成 (金子 愛)

文京区の住民が日頃から活用できる地震防災危険度マップを作りました。最後に白地図がついているので、町内をめぐって防災マップを自作することもできるようになっています。

